

総合特別区域評価・調査検討会における評価結果の概要(令和3年度)

2. 分野別状況(2)地域活性化総合特区 ②ライフ分野

	総合評価 (ⅠとⅡとⅢを1:1:2の割合で計算)	Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	総合評価に係る専門家所見(主なもの)
		目標に向けた取組の進捗	支援措置の活用と地域独自の取組の状況	取組全体にわたる事業の進捗と政策課題の解決	
ふじのくに先端医療総合特区 (静岡県)	4.1	3.5 進捗度 ・がん診断装置・診断薬の開発 0% ・その他医療関連製品の開発 104% ・医療分野に活用可能な山梨県企業の高い技術力について、静岡県企業がファルマバレーセンター及びメディカル・デバイス・コリドー推進センターに相談した件数 102% ・医療機器生産金額(静岡県内) 75% ・製造業等の企業立地件数(静岡県内) 75%	4.6 規制の特例等 ・国内品質業務運営責任者の資格要件について等 財政支援等 ・医療機器等開発・参入支援事業 ・総合特区支援助利子補給金 地域独自の取組 ・沼津高等専攻科「医療福祉機器開発工学コース」の開設 等	4.2	<p>・静岡がんセンターを中心として、県東部と山梨県をヘルスケア産業の集積地とする計画は、県内の産業のバランスからいっても期待できる戦略である。</p> <p>・コロナ禍の問題状況を考慮すると山梨県サイドからの拠点センターの整備や連携の促進が進むなかで、一定の成果が見られ、今後の着実な進展への可能性を見出せている。地域独自の取組みにも成果が見られており、医療関連の製品開発等が経済を牽引する2県連携のモデルとして、今後の展開に注目したい。</p> <p>・領域によって進捗度にバラツキが見られるものの、全体的には十分な成果が得られていると考えられる。</p> <p>・開発試作品のユーザビリティなどの評価にあたり、認定看護師教育課程と静岡がんセンターが協力したことは、好連携の事例として評価できる。</p> <p>・静岡がんセンターでの看取りの知見は、「自立のための3歩の住まい」の実装化にとどまらない、幅広い方面での活用にも期待したい。</p> <p>・評価指標(1)(2)は未達の指標もあるが、最終製品の開発という高い目標を掲げており、これまでの実績を基に今後達成に向かうことが求められる。</p> <p>・多様な取り組みがあり、努力されている様子が見える。高等専門学校、認定看護師教育課程など、多様な組織との共同は評価できる。一方目標に向けた取り組みの進捗は評価できない項目も多く、見直しが必要と思われる。</p>